

2025年度 SYLLABUS 【博士前期課程】

授業科目名：経営哲学特論	
担当教員名：藤沼 司	
授業科目概要： 「経営哲学」の英語表記には、例えば① management philosophy、② philosophy of management がある。このことからわかるように、「経営哲学」は多義的である。①「経営者の哲学・理念」のように経営が行われる際の独特のポリシーの意味で用いられることもあるが、②「経営を哲学する」という意味で用いられることもある。ここで「経営を哲学する」とは、経営をめぐって基本的なところから問い直す態度を意味する。②は①を包含する。本授業では、人間とは何か、協働とは何か、組織とは何か、経営・管理とは何かをめぐって、基本的なところから問い直す。そうは言っても、何の手がかりもなしに「経営を哲学する」ことは難しいので、そうした特徴を有するC.I.バーナード『経営者の役割』を題材として取り上げ、履修者自身が経営哲学研究をなしうる素養の涵養に努めたい。	
履修上の留意事項： ・本授業では、履修者自身が「経営を哲学する」態度で臨むことを期待する。 ・授業への積極的な参加を期待する。	
教科書・参考書（参考文献）	
書名：経営者の役割 著者／編者：バーナード著、山本・田杉・飯野訳 出版社：ダイヤモンド社 出版年：1968年	書名：経営学研究方法論 著者／編者：山本安次郎 出版社：丸善 出版年：1975年
書名：管理の哲学 著者／編者：村田晴夫 出版社：文眞堂 出版年：1984年	書名：経営哲学研究序説 著者／編者：小笠原英司 出版社：文眞堂 出版年：2004年
書名：バーナード経営学の展開 著者／編者：庭本佳和 出版社：文眞堂 出版年：2006年	書名：藤沼 司 著者／編者：経営学と文明の転換 出版社：文眞堂 出版年：2015年
評価方法及び判定基準： ・受講時の態度（積極性の有無）や発言内容（質問、意見等）、レポート等によって総合的に評価する。 ・成績評価は、60点未満をF、60～69点をC、70～79点をB、80点以上をAとする4段階とし、C以上の評価に単位を与える。 ・各評価の基準は以下の通り。 - A評価：授業内容を応用できるのみならず、批判的にとらえることを含めて、当該理解をさらに発展させられること。 - B評価：授業内容の理解に基づいて、より広いケースにその理解を応用できること。 - C評価：授業内容について、概ね理解していること。	

授業目標及び進め方：

履修者自身が「経営を哲学する」（経営に関わる既成観念を徹底的に問い直し、「経営」そのものを明らかにする）ことができるようになるのが、最終的な目標である。そのために、担当教員による講義とともに、教科書を履修者各自に分担して報告してもらい、その報告をめぐって議論する、という形で進める。そのことを通じて、自身の「経営哲学」の構想を目指してもらいたい。

第 1 回	テーマ：「経営哲学」の概観 内 容：先達が提起した経営哲学体系を鳥瞰する。 教科書／参考書：ノート講義
第 2 回 ～ 第 4 回	テーマ：バーナード『経営者の役割』に見る人間観 内 容：経営学に登場する主たる人間観と比較しつつ「人間」について考える。 教科書／参考書：バーナード『経営者の役割』第 1・2 章
第 5 回 ～ 第 6 回	テーマ：バーナード『経営者の役割』に見る協働観 内 容：「人間協働」について考える。 教科書／参考書：バーナード『経営者の役割』第 3・4・5 章
第 7 回 ～ 第 9 回	テーマ：バーナード『経営者の役割』に見る組織観 内 容：人間協働の中核を成す「組織」について考える。 教科書／参考書：バーナード『経営者の役割』第 6・7・8・9 章 飯野春樹『バーナード研究』文眞堂、1978 年。
第 10 回 ～ 第 13 回	テーマ：バーナード『経営者の役割』に見る管理（経営）観 内 容：「組織」を機能させる「経営・管理」について考える。 教科書／参考書：バーナード『経営者の役割』第 10～18 章 飯野春樹『バーナード研究』文眞堂、1978 年。
第 14 回	テーマ：経営学研究の主潮流の概観 内 容：「経営科学」（経営を科学すること）について考える。 教科書／参考書：ノート講義 藤沼 司『経営学と文明の転換』文眞堂、2015 年。
第 15 回	テーマ：「経営哲学」の再考 内 容：経営哲学研究の意義について考える。 教科書／参考書：ノート講義